

EUの研究リサーチとBRICs新興国

林 秀毅

(一橋大学国際・公共政策大学院客員教授、EUSI 主任研究員)

EU に対する研究リサーチのネットワークは、今や世界に広がっている。その背景は、EU が第二次大戦後、60年以上かけて欧州統合を進め「不戦共同体」を構築したことだけではない。2009年のギリシャショックで表面化したユーロ危機が次第に深刻化したことに対し、EU がどのように取り組み、現在に至ったのか。このような統合の光と影の両面から、世界の各国・各地域は、自らが地域統合を進める上で、より冷静で客観的な判断材料を得ることができるようになった、という面がある。

具体的な研究機関としては第一に、EUSIのように、大学などがEUから資金の支援を受け互いに協力しながらリサーチを行っているEUセンターがある。これは従来、日本・韓国にアセアン諸国を中心としたアジア・太平洋地域と、米国・カナダを中心とする北米といった、どちらかといえば先進国中心に発達してきた。アジア・太平洋地域では、これらのEUセンターが定期的集まり研究発表を行うなど、情報交換を行っている。今年2月にニュージーランドで行われた会議では、ホストのカンタベリー大学から「EU はアジアの地域統合から何を学ぶのか？」という逆説的(あるいは挑戦的?)ともいえる課題が与えられ、筆者も日本を含む最近のアジアにおける為替政策や自由貿易交渉の動きを参考に、「政策レジームのあり方」という観点から欧州統合への示唆を検討する、という研究報告を試みた。

第二に、それ以外の国・地域でも、従来から独自にEU研究を進めているケースも多い。その代表的な例は中国である。上海の復旦大学、北京の人民大学・清華大学などの主要大学には、先進国と同様に、ジャン・モネ・チェアと呼ばれるEUから研究実績を認められた研究者を中心にEU研究が進められている。

以上のような二つのグループの間でも、研究面だけでなく教育面においても、必要に応じ自由な交流が行われている。例えばEUSIではこれまで二年間にわたり、慶應義塾大学と韓国でEUセンターを持つ延世大学、中国でEU政治の研究を活発に行っている復旦大学の各教室をネット回線で結び、欧州から招いたスピーカーによる講義内容をほぼリアルタイムで配信し、各地の教員や学生から質問やコメントのフィードバックを受けるという双方向の遠隔授業を実験的に行ってきた。

さらに最近では、その他の新興国におけるEU研究が進んでいる。例えばロシアにはEU委員会の支援を受けたEUセンターが、サンクトペテルブルグからシベリア地区まで6か所、設立されている。冒頭述べたアジアや北米と比較すると、比較的設立されてから日々が浅いものの、ロシアは歴史的・地理的に欧州との関係が深い上、経済的にもエネルギー面を中心にした利害関係、政治面でも、最近のウクライナ情勢に見る通り地政学的な関係が強い。筆者は昨年、ロシアの研究センターの内、3か所を訪問する機会を得たが、以上のような理由から、欧州に近いサンクトペテルブルグの大学を中心に、ロシア国内の各地域がそれぞれ独自の観点からEU研究を進めていると感じられた。

さらに、それ以外の新興国でも、EUに対する関心が高まっている。これは先ず、各国にとってEUが主要な貿易・投資の主要なパートナーであるため、FTA交渉の可能性などを含めた政策面への関心が高まってきたため

あることは言うまでもない。

しかしそれに加えて、現在、世界各地で地域統合が進められており、その一つのモデルとして EU に対する関心が強まっているという理由が挙げられる。

例えば、ブラジルでは、昨年5月、ミナスジェライス大学に、EUと直接の関係を持つ初のEUセンターが誕生した。そこではブラジルが隣国のアルゼンチンなどと作るメルコスールと呼ばれる地域統合のあり方が議論されている。

メルコスールは EU 同様に域内の自由貿易や対外的な共通関税などはそれなりに進んでおり、かつては共通通貨の導入も議論されたことがあった。しかし現在では、ブラジルの経済規模が他の参加国に対し突出して大きい上に、本来ブラジルに対抗すべきアルゼンチン経済が金融・財政両面で深刻な問題を抱え、その点がまた主要な貿易相手国でもあるブラジルの経済にマイナスをもたらすという悪循環が生じている。

また、インドでは、国内で最も研究水準が高いと言われるネルー大学(JNU)にEU研究センターがあり、ジャン・モネ・チェアーの研究者が活躍している。インドもまた、南アジア諸国との間で南アジア地域協力連合(SAARC)と呼ばれる組織を作っているが、その活動は停滞している。これは、よく言われるように政治・宗教面でインドとパキスタンの関係が依然悪く、この点が地域内のさまざまな交渉を行う上でネックになっていることは否定できない。しかし同時に、インドもまた近隣国と比較して突出して経済規模が大きいだけでなく、産業構造が近隣諸国同士で互いに似ているため、貿易を推進しようというインセンティブが働かないことが指摘されている。

以上のように考えてみると、EU に対する研究リサーチの関心は、先進国だけでなく、BRICs と呼ばれる主要新興国の間でも高まっていることが伺える。現在の世界経済情勢をみるかぎり、景気が回復しつつある先進国に対し、新興国それぞれの構造的な問題に直面しやや足踏みをしているかのようにみえる。しかしこれらの国がそれぞれの問題点を克服する上でも、EU は経済統合・地域統合を実現してきた貴重な先例として示唆を与えることになるのではないか。

2014.03 インドネルー大学 EU センター等との意見交換を実施

http://eusi.jp/content_jp/research/report-research/report-economics/201403_visited_eusi.html

2014.02 EUSI がブラジル EU センター主催の国際会議に招待参加

http://eusi.jp/content_jp/research/report-research/report-economics/201402_visited_eusi.html

2013.03 ロシア EU センター等との意見交換を実施

http://eusi.jp/content_jp/research/report-research/report-economics201303_visited_eusi.html